

まほろば秦野通信

平成30年9月21日

タイトル	参加者募集 古典の日・文学講演会 「源実朝と斎藤茂吉 —『金槐集私鈔』をめぐって—」
When (いつ)	11月10日(土曜日) 午後1時半～3時
Where (どこで)	図書館 視聴覚室(平沢94番地の1)
What (なにを)	「古典の日」を記念し、源実朝をテーマとした講演会を開催します。
How (どのように)	歌人、鶴見大学短期大学部教授で文学博士の山田 吉郎(やまだ よしろう)氏を講師に招き、講演会を開催します。(※講師のプロフィール等は別紙ちらしをご覧ください) 斎藤茂吉の『金槐集私鈔』は源実朝の『金槐和歌集』の歌に解釈を加え、茂吉の批評を加えたものです。実朝の歌を紹介しながら、斎藤茂吉がどのように読んだのか解説していただきます。
Why (なぜ)	平成24年9月5日に公布・施行された「古典の日に関する法律」により、11月1日は「古典の日」となりました。図書館では、市民が古典や文学に親しむ機会としてもらうため、文学講演会を開催しています。 今年度は、「源実朝公御首塚」ゆかりの源実朝を取り上げます。
過去の実績	平成26年度は「源実朝の和歌の世界」、27年度は「源氏物語への招待」、28年度は「谷鼎と丹沢の風土」、29年度は「源氏物語—こどもと大人の言語空間—」をテーマに講演会を開催しました。
今後の取り組み	来年度以降も引き続き、古典や文学に関する講演会を開催していく予定です。
問い合わせ	図書館 担当：山口 電話0463(81)7012

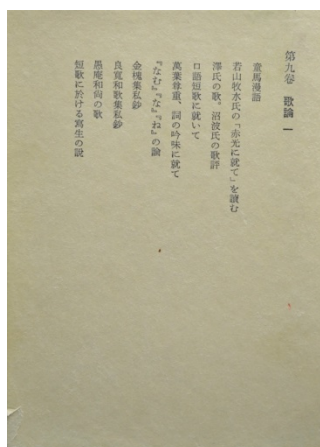
古典の日・文学講演会

源実朝と斎藤茂吉

— 『金槐集私鈔』をめぐって —



源実朝像（『国文学名家肖像集』収録）
（wikipedia より引用）



『斎藤茂吉全集』第九卷



斎藤茂吉

『現代日本文学大系 38』（筑摩書房）より引用

日時
平成30年11月10日（土）
午後1時30分～3時
講師
山田吉郎氏
（歌人、鶴見大学短期大学部教授）
会場
図書館2階 視聴覚室
定員 80人（申込み先着順）

問い合わせ・申込み先 秦野市立図書館

秦野市平沢94-1 電話 0463-81-7012

源実朝

建久3年8月9日—承久元年1月27日 鎌倉幕府第三代将軍。鎌倉名越の北条時政邸で生れる。源頼朝の二男、母は北条政子。建仁3年9月、比企氏の滅亡、頼家の廃立直後に元服し、将軍に就任。政争を忌み、京文化に憧れて、元久元年、坊門信清の娘と結婚。建保元年、和田義盛の乱後、陳和卿のすすめで巨船を建造し、渡宋を志したが失敗。官位を切望し、異例の速さで昇進し、同6年右大臣となる。翌年右大臣拝賀の式を終えて鶴岡八幡宮からの帰途、甥の公暁に殺された。

和歌、飲酒、蹴鞠を好み、家集『金槐集』には万葉調の和歌が多い。

(『新潮日本人名辞典』より抜粋)



源実朝公御首塚

秦野市東田原 1018-2

秦野市指定史跡 (昭和46年指定)

(写真は秦野市HPより引用)

斎藤茂吉

明治15年5月14日—昭和28年2月25日 大正・昭和期の歌人。山形県生れ。旧姓は守谷。明治29年上京、親戚の開業医斎藤紀一方に寄寓、38年正岡子規の『竹の里歌』を読んで短歌を志し、同年斎藤家の婿養子として入籍。翌年伊藤左千夫の門に入った。41年「アララギ」の創刊に参加、編集を担当する。43年東京帝大医科大学卒。精神科を専攻し、巢鴨病院に勤務。大正2年歌集『赤光』を出版、歌壇内外に大きな影響を与えた。6年長崎医専教授として長崎に赴任。10年第二歌集『あらたま』を出版、同年末より欧州に留学、14年帰国。昭和2年青山脳病院院長。長崎時代に「写生説」を確立し、帰国後は歌集『寒雲』、『ともしび』などのほか、随筆、柿本人麻呂研究に独自の境地を示した。

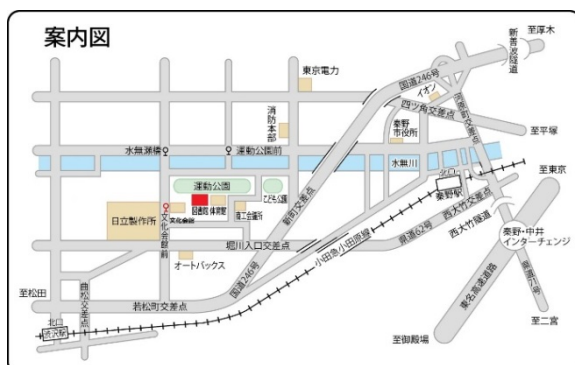
(『新潮日本人名辞典』より抜粋)

講師 山田吉郎 氏

歌人、歌誌「ぷりずむ」選者、鶴見大学短期大学部教授、文学博士
現代歌人協会会員

歌集『蝶の記憶』、『実朝塚の秋』、『猫坂物語』

著書『前田夕暮の文学』、『前田夕暮—受容と創造—』、『前田夕暮百首』(編)
『丹沢の文学往還記』、『朔北の雲』、『明治短歌の河畔にて』ほか



会場のご案内

- 秦野駅から
小田急小田原線秦野駅北口
バス 3番のりば…「文化会館前」下車等
- 渋沢駅から
小田急小田原線渋沢駅北口
バス 1番のりば…「文化会館前」下車